Careline

KYOUWAKAI Press　ケアライン

2021

新年号

新年のごあいさつ

あけましておめでとうございます。皆様のご指導ご支援により、新春を迎えることができたことに対し心より感謝申し上げます。

昨年来の新型コロナウイルスへの対応で、通常とは違う状況で新年を迎えております。皆様におかれましても、感染症対策を徹底するため、旅行や出張だけではなく、近所への外出や会食の自粛を迫られ、非日常の生活様式が日常化しつつあるのではないでしょうか。

共和会の使命は、「あたりまえのくらし」を実現する支援をすることであります。そのためには、患者さん、利用者さんの安全・安心が大前提であり、病院・施設内に感染を持ち込まないために、あらゆる手段を講じていきたいと考えております。

従来より当法人では、「共和会地域包括ケア推進本部」におけるプロボノ活動を中心に、地域に貢献できる組織を目指して頑張っていますが、新型コロナウィルス感染蔓延のため、その活動は大きな制約を受けました。特に、介護を要する利用者さんが、外出自粛のために体力が低下したことは、非常に申し訳なく思っております。

本年は、感染対策を優先させながら、感染拡大前の活動をどのように再開させていくのか、創意工夫を凝らしていきたいと思います。昨年同様、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

医療法人共和会　小倉リハビリテーション病院
病院長　梅津　祐一

関門海峡の朝焼け

特集　これまで、そしてこれから…
コロナ禍における共和会の運営について

REPORT　コロナ禍において「伸寿苑文化祭」開催!!

interview

これまで、そしてこれから…
コロナ禍における共和会の運営について

ケアライン新年号として浜村 明徳 共和会会長にインタビューしました。

会長（浜村 明徳）紹介

略歴

1975年 長崎大学医学部卒業

1992年 国立療養所長崎病院副院長

1998年 南小倉病院
（2001年、〝小倉リハビリテーション病院〟に改称）院長

2000年 介護老人保健施設“伸寿苑”施設長

2003年 日本リハビリテーション病院・施設協会会長
（2012年より名誉会長）

2007年 特別養護老人ホーム“こくらの郷”理事長

2013年 小倉リハビリテーション病院　名誉院長

Ⅰ. 1年間を振り返り…コロナ禍における共和会の運営について

■ 感染対策本部の設置、職員の健康状態を把握するシステム

法人内ではあのクルーズ船での感染から間もない2月20日、病院長を本部長とする「共和会新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置し、週2回の会議を実施してきました。感染予防対策や職員への自粛要請など情報提供が速やかに実施されたと思っています。

対策の重要な事項として予防にかかわる備品等の確保があるわけですが、上半期前半は一部不足傾向にありましたが、後半は十分量を補充し、備品の不足による危機は起こりませんでした。

また全職員及び家族の健康状態を把握するシステムを開始し、健康状態情報は毎日報告され迅速な対応がなされました。報告に基づき、必要に応じて休暇を取ってもらうなど感染蔓延予防の措置をとりました。作業の手間はかかりましたが、職員の協力をもって適切な対応につなげられたと考えています。

■ 感染リスクの高い3密の防止策を実施

また、外来と入院患者のリハビリテーション実施場所を分離、昼食場所の増設、全施設で定時的な換気など、感染リスクの高い3密の防止対策を実施しました。さらにはクラスターを防ぐべく、階・施設またぎの予防策、送迎の同乗者対応、面会の制限や再開など地域の感染状況に応じた対策を実施しました。

こうした動きと共に、職員もお互いに支え合おうと自主的な支えあい活動を行うなど意識を高く持ち続けられるように努めたことも、予防に結びつけることができたと思っています。

■ これまで、そしてこれから

全体を振りかえると当初、『持ち込む可能性を排除できない』ため、何より『職員の感染そしてクラスターの発生』を防ぐことが重要になると考えました。その後、コロナ感染を経験する中で『安定期はなく、年間、断続的に発症があり、とくに冬季は拡大の可能性が高い』と、厳しい見通しに変更しました。そして、クラスターを起こさないため、『市民より一段高い自粛』に努め、常時、市中感染があることを前提に、気を緩めることなく職員への自覚と自制心をお願いしました。

現状では、コロナの感染状況を見極めつつ守りに徹した運営、病院、老健、地域リハの3部門でクラスターだけは起こさないという運営を行うしかありません。

問題は「これがいつまで続くのか」ということですが、当然ながら先の予測はつきません。仲間を信じながらやっていく、考えられる様々なことを組織で、グループで、個人でやっていくことが大切だと思います。

Ⅱ. 介護報酬改定の年に向けて…

■ 老健は生活期のリハビリテーションを柱に機能

次回の介護報酬の改定については、いくつかの情報がもたらされていますが、コロナ禍にあって大きな引き下げはないのではないかと希望的な観測をしています。以下、私見を述べます。

まず老健ですが、2012年の報酬改定以降、在宅復帰・在宅療養支援機能に比重が移ってきたと感じています。

2018年、介護保険法で老健利用者の定義が改訂されたこと、この20年間における住まいや生活施設の充実を前提にしますと、「在宅復帰・在宅療養支援機能・リハビリテーション提供機能」を重視する流れが明確になったように思います。とは言え、時代のニーズを担うには抱える課題も多く、心もとない部分もあります。

伸寿苑のこれからですが、法人全体がリハビリテーションを柱にしているわけですから、この特徴を生かし生活期のリハビリテーションを担いきれるよう運営してゆきたいと考えています。

現在、在宅復帰・在宅療養支援等指標の点数により5つの型が設けられています。そして、回復期リハビリテーションと同じようにこの5つの型に基づいて報酬が定められています。最も高機能の超強化型が維持できるよう努めてゆきます。

一方、入所判定に手間取ってしまい関係者にご迷惑をかけています。迅速で適切な対応ができるよう努めてまいります。

■ リハ専門職も人生の最期まで関わる時代になった

また、通所リハビリテーションと訪問リハビリテーションも法人の特徴であるリハビリテーション機能を生かして、活動や参加等生活機能の維持向上を目指して支援しています。

通所リハビリテーションは、障害の程度や年齢などを考慮して、2つの事業所を運営し、利用される方のニーズに沿って2つの通所リハビリテーションが機能分担しています。

法人通所リハビリテーションの特徴的な活動の一つは、これからは利用者の皆様に、疾病や障害、リハビリテーション、制度など様々な知識や情報をご理解いただき生活してもらうことが重要と考え、毎月、専門職による講座を行っていることです。二つ目は、通所された時の活動だけでなく自宅生活の仕方が重要です。自宅での生活をどのように行っているか暮らしぶりを拝見させていただくため、スタッフが訪問し、在宅生活への助言を実施しています。

訪問リハビリテーションは、その人らしく生活して頂けることを目標に頑張っています。基本的には入院中に行っていた練習を繰り返すようなことはなく、その人の生活目標に基づいて、自立生活が獲得できるよう支援しています。

最近では重症の方も多くなってきています。この4～5年では癌や進行性疾患等も多くなってきました。そのため訪問看護と協働するなど、リハビリテーション専門職も人生の最期までかかわるような時代になってきたと感じます。

Ⅲ. 地域リハビリテーションの視点からのメッセージ

■ 生きる力を強くする支援

まずは、障害の発生予防、重度化予防を重視するリハビリテーションが今まで以上に必要となってきます。介護予防の支援活動などを通して、予防活動を取り入れれば障害の発生を予防していく事ができます。

今後は重度の方も増えていきますが、障害が重度であっても、ICFの考え方である社会参加を促すことが要点となります。これはリハビリテーションだけではなく、看護、介護でも同様です。

次に自立支援のリハビリテーションです。地域包括ケア推進のキーワードとなっていますが、これから介護保険の領域では自立支援の介護が重要な課題になると思います。

リハビリテーションをその人の心身機能改善だけで終わらず、結果として自助力強化につなげられる支援をすべきでしょう。互助の力も専門職の支援とは違う成果を得られることがあります。互助力強化への支援も併せて行い、エンパワーメントなどリハビリテーションそのものが「生きる力を強くするような支援」になればと思います。

■ その人らしい生活の獲得

これからますます後期高齢者が増えていきます。団塊の世代の価値観を考えると自分らしく生きたいという方が今までより多くなり、「その人らしい生活の獲得」を支援するリハビリテーション・看護・介護が課題となって参ります。

具体的には、一つは地域とつながりがあり安心できる生活、もう一つが自己決定を尊重する事が大切になってくると考えています。人はみんな自分の人生を自分で決める権利を持っています。我々は自己決定を尊重するリハビリテーション・看護・介護をやっていかなければならないと思います。

■ 地域連携・ネットワークづくりを担うリハビリテーション

もう一つ課題となるのが、「地域連携・ネットワークづくり」を担うリハビリテーションです。地域包括ケアはシステムというより地域の連携だという考え方が良く語られます。これからの地域包括ケアの在り方は、システムづくりが課題となるため、リハビリテーションはそれを積極的に担っていかねばならないと思います。

しかし、一つの連携活動でシステムが出来上がることはありません。さまざまな連携組織が機能していかなければならないし、さまざまな連携組織の連携があって地域包括ケアの連携システムが出来あがってくるのではないかと考えます。

こうした中、連携はMSWの仕事と考えられがちですが、関係者全てが連携を意識し、連携も仕事のうちだという考え方が地域包括ケア時代の適切な考え方だと思っています。

■ 地域と連携…地域ぐるみで支えていく

個人に対してサービスや支援が行き届くことは不可欠ですが、その個人は地域で暮らしています。そこで、その地域のありようそのものは考えなくていいのかという話になって参ります。

地域包括ケアは市民と共に、地域ぐるみで支えていく連携システムと考えられていますが、地域は人と人のつながりが乏しくなり、地域とのつながりが細くなっています。つまり、高齢化の進行とともに地域の支援する力は乏しくなってきたと言ってよいでしょう。

しかし、これからも一人暮らしの高齢者が増えていきますし、地域そのものも変わってゆかねば障害のある人や高齢の方が地域から孤立して、孤独な生活になってしまうことが予測されます。これでは退院や退所して地域に戻っても極めて厳しい生活になる可能性があります。

そこで、病院や施設が持っている機能を患者さんや施設の利用者に提供するのは当然ですが、その機能の一部を地域の啓発活動、社会参加の場づくりの支援、地域の人同士で見守りや支えあう活動を支援していければ、これからの超高齢社会への光明が見えてくるのではないでしょうか。

生活の場である地域へも我々の持っている機能をほんの少しでも提供すると地域は変わっていく可能性があると考えます。「地域づくり」に資するリハビリテーション・看護や介護が期待されますし、ニーズもあります。

当法人ではそのような活動を従来から継続していますが、この6～7年はプロボノ活動として実践しています。昨年は年間延べ1700名の職員がさまざまな活動に取り組んできました。課題はたくさんありますが取り組めるところから実践してみることと、大事なことは多くの職種がこのようなことを理解して取り組めれば充実した活動になってゆくのではないかと思っています。しかし、業務やプロボノなど進め方には課題も多く、今後、制度上の保障が期待されています。

■ コロナが終息し平穏な一年になることを願って

誰も、自分の人生にコロナの発生は全く予測できなかったと思います。コロナ禍に伴う不安そしてストレスは計り知れないものがあると感じています。いつもの新年とは違って、緊張に包まれた一年のスタートとなっていることでしょう。

しかし、コロナとの付き合いがいつまでも続くものではありますまい。きっと、春が来て夏になれば落ち着きを取り戻せると信じています。今年も上半期は大変だと思いますが、オリンピックが開催できるような環境になることをただただ祈るばかりです。丑年の後半にはいつもの状態が戻ってくると信じて、皆でコロナを乗り越えていきましょう。

地域の関係者の皆様には、今年も共和会と親しくお付き合いくださいますようお願いして新年の挨拶とさせていただきます。

REPORT

コロナ禍において「伸寿苑文化祭」開催!!

毎年恒例行事である伸寿苑文化祭…、今年はコロナ禍において利用者、職員の作品展示会ということで開催しました。（11月16日～7日間）

作られた方の「思い」や「気持ち」…見ていると、なんだかあたたかい気持ちになれました。言葉では上手く表現出来ませんが、その方の『人生』が凝縮されているように見えます。

「患者さんが最後まで人としての誇りをもち、人生を全うできるかかわりを行っていくこと・・・それが我々医療従事者の仕事じゃないのか。」という会長の言葉が浮かんできました。だからこそ、職員も出来る限りの敬意を払って掲示させて頂きました。

さまざまな行事が中止となった令和2年。不安続きの日常が続きましたが来年の文化祭の時期には以前のような賑やかなイベントが開催できること願い、コロナを乗り越えていきます!

◆当院へのアクセス

JRの場合

「南小倉駅」（日豊本線・日田彦山線）より片野方面へ徒歩10分

バスの場合

「木町二丁目」バス停（ファミリーユサ前）より小倉南区方面へ徒歩10分

都市高速の場合

「紫川IC」清水方面車線出口よりすぐ右側

カーナビでお越しの際は、

NAVI 北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1と入力してください。

医療法人 共和会

小倉リハビリテーション病院／介護老人保健施設 伸寿苑／共和会地域リハビリテーションセンター

TEL.093-581-0668（代表） FAX.093-581-3319（共通）

〒803-0861福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目5-1 http://www.kyouwakai.net 共和会 検索

公式SNSで情報配信中!

facebook Instagram

Careline KYOUWAKAI Press

[ケアライン]2021 新年号／これまで、そしてこれから…コロナ禍における共和会の運営について

○発行 医療法人共和会 小倉リハビリテーション病院／連携広報部 井上崇